教授の呟き

第32回

話して、書いて、振る舞うこと

東京海洋大学教授　苦瀬博仁

夏に思い出す恩師の小話

寒い冬の日のこと。

「お～い、八つあん。今日は冷えるねぇ」

「そうだねぇ、熊さん。このぶんじゃ、山は雪だろうねぇ」

半年後の暑い夏の日のこと。

「お～い、八つあん。今日は暑いねぇ」

「そうだねぇ、熊さん。このぶんじゃ、山は火事だろうねぇ」

夏になると思い出すこの小話は、大学院時代の恩師のM先生が、宴席で披露したものである。

「君のカバンは重たそうだねぇ」

「はい。頭に入らないので、カバンに詰めています」

「うまいことを言うねぇ。自分を知るということは大事なことだ」と、ニヤッとしながら切り返されたのもM先生だった。

講演・討論・座談の違い

M先生は、軽妙洒脱（しゃだつ）な座談の名人だった。決して怒らない人だったが、その分とても怖く、明治生まれの気骨というものを感じさせた。こんなことも言っていた。

「話し方には、３種類ある。立って講演、椅子に腰掛けて討論、あぐらをかいて座談。それぞれの違いをわきまえて、努力するように」**（表１）**

その後の博士課程でお世話になったO先生は、大正４（1915）年生まれで、漢詩をたしなむ博識家だった。

「自信がなくてドギマギするときほど、ゆっくり丁寧に話すこと。そうすれば、堂々としているように見える」

「逆に自信があれば、多少は端折ったりしても大丈夫。なぜなら質問があっても、十分に答えられるから」というご託宣（たくせん）だった。

自分には無縁のものと思って聞いていたが、話す機会の多い職業についてからは、難しさに直面して失敗を重ねている。講演ではゆっくり話すようにしているが、その分自信がないということだろうか。討論になれば、言い過ぎたり言葉足らずになってしまう。座談になると地が出てしまい、酒でも入ろうものなら相手の言い分を聞き分けられなくなって失敗する。

論文・報告・エッセイの違い

「書くときには、論理的に知見を記述する学術論文、実態を明らかにする調査報告書、思いを伝えるエッセイ。この３つを区別しておくこと」**（表２）**

これもO先生だったろうか。学術論文と調査報告書の書き分けも難しいが、ある編集者によれば、文章の中で一番難しいのがエッセイとのこと。無謀にも挑戦して、連載も32回目。「呟き」と言いつつ、なかには「戯言（たわごと）」もあれば「繰り言」もあるかもしれない。

日本語だけは正確にと心がけてい

るのだが、それだけでは、粋（いき）な座談や味わいのあるエッセイにはほど遠い。

先生は、易者・医者・役者…？

O先生は「者」がつく職業になぞらえて、大学の先生の振る舞いを5つに分類していた。将来を見通す易者、現状を診断して治療する医者、学を極める学者、演出家の指図にあわせて演じる役者、客の求めに応じて芸を披露する芸者（表3）。

どれもこれも一流になるためには大変な努力が必要だから、5つのすべてを目指しても、まず無理とのこと。しかも性格や人柄、環境や努力によって、どの「者」になるかも変わってくる。そして「できれば、易者を目指せ」とのご指南だった。

大学に転職するときには、心構えを諭された。「先生の役割には、ティーチャー（教育者）、リサーチャー（研究者）、インストラクター（指導者）がある。君は、インストラクター向きかな」と言われた（表4）。

教育も研究も能力不足ということか、とショックを受けたが、「指導は、教育と研究の先にあるはず」と考え直して、努力を誓った覚えがある。

心に響いた恩師の言葉

現実社会と密接なロジスティクスは、学問の追求だけでは物足りないが、だからといって社会に迎合してもいけない。それゆえ「話し、書き、振る舞うこと」について、さまざまなバランスを考えておかなければならないと思うのである。

今でも何かにつけて思い出しては、身を正そうとしているのだから、2人の先生の言葉はそれだけ心に重く響いたことになる。

それから四半世紀たち、立場は入れ替わり、学生も何人か抱える身になった。学生たちに何かを残せているのだろうか、彼らは何かのときに思い出してくれるだろうか。精進して2人の先生の域に近づきたいものである。

M先生もO先生も、今は天に召されている。お盆には、合掌したい。

表1　3つの話し方

①講演：立って1人で話す
②討論：椅子に腰掛け意見を戦わす
③座談：あぐらをかいて、一杯やりながら…

表2　3つの書き方

①学 術 論 文：論理的に知見を記述する
②調査報告書：実態を明らかにする
③エ ッ セ イ：思いを伝える

表3　先生の5つの振る舞い方

①易者：将来を見通す
②医者：現状を診断して治療する
③学者：学を極める
④役者：演出家の指図にあわせて演じる
⑤芸者：客の求めに応じて芸を披露する

表4　先生の3つの役割

①ティーチャー（教育者）：教え育むこと
②リサーチャー（研究者）：研究すること
③インストラクター（指導者）：方向を示し導くこと

Profile

東京海洋大学　海洋工学部
流通情報工学科　教授
苦瀬博仁

（くせ　ひろひと）1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。75年、同大学大学院修士課程修了。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年から東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長を経て、04年4月より評議員。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授（併任）。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」（税務経理協会）、「都市交通―都市交通計画・都市物流計画」（丸善）、「マニラ・エンジョイ・トラブル」（論創社）、「明日の都市交通政策」（成文堂）http://www.e.kaiyodai.ac.jp/~kuse/